

理系人材育成へ連携

県内の5高校
崇城大と協定

国の指定を受けて理数系教育に力を入れる県内のスーパーサイエンスハイスクールの第二、熊本北、宇土、天草、鹿本の5高校でつくる「熊本サイエンスコンソーシアム」と崇城大は20日、人材育成に向けた連携協定を結んだ。

以前から各校とも崇城大と交流があり、今後は組織として「高大接続」に力を入れる。協定の調印式で崇城大の中山峰男学長は「大学の研究設備を高校生に活用してもらいたい」と支援を

約束。コンソーシアム会長の光永幸生第二高校長は「熊本から世界にはばたくサイエンティストを育てたい」と述べた。

崇城大の後藤浩一生物生命学部教授による人工透析のモデル実験もあり、熊本北高の生徒6人が参加。家族が透析治療中という2年の高木麻衣さんは「実験装置が本物と同じで、感動した。仕組みも詳しく知ることができ、うれしかった。将来は腎臓病を治す薬剤師を目指したい」と語った。（澤本麻里子）